

一般シンポジウムS20

患者の問題点に即断できる薬剤師育成のためのアドバンス薬学教育と研究の必要性

Necessity of Advance Pharmaceutical Education and Research for Upbringing of the Pharmacist Who Can Make a Immediate Decision in Patient's Problems

大井 一弥¹, 高村 徳人²

¹鈴鹿医療大薬, ²九州保福大薬

薬学教育6年制のカリキュラムは充実し、知識の取得には、十分な内容になっている。

現在、薬学部の卒業生は、多くが病院や薬局に勤務する薬剤師になるものの、大学において、臨場感を持たせた教育、医療現場の理を共有できる研究が少ないと考える。

薬剤師は、医師や看護師の慢性的な不足から、論理立てることに加えて、待ったなしの状況に追い込まれながら、チーム医療を実践する状況が増えている。

そのため、今、薬剤師が身に付けるべきは、様々な状況に追い込まれた患者の前で「即断できる臨床的能力」である。

薬学部は薬剤師という医療人を育成する場である。したがって、そこでの研究は薬剤師の医療水準を向上させるための薬学的新技術を生み出すものでなければならなかった。しかし、そうになっていない。なぜならば、患者は“薬剤師の無限の可能性”に気づいていないため、薬剤師に高い医療技術を要求せず、患者から追いつめられることもなかった。これが、薬剤師の新技術の創生を妨げた。

本シンポジウムでは、緊急を要する部署やカンファレンスでの迅速性およびセルフメディケーションによる判断力を経験している薬剤師から臨床薬学に必要な提言を行う。また、薬学部からは、お薬相談外来の実践から見えてくる医療現場における即断力の必要性、およびフィジカルアセスメント教育がもたらす薬剤師の新技術創出の可能性についても言及する。